

NEWS
Niigata University of Health and Welfare
Teaching Career Support Center
LETTER

CONTENTS

1. 巻頭言：想いが乗った言葉を紡ごう
2. 今だから伝えたいこと
3. 新任教員紹介・退職教員
4. 教職課程担当教職員から
学生のみなさんへメッセージ
5. あとがき



想いが乗った言葉を紡ごう

教職支援センター長 吉田 重和 (健康スポーツ学科)



SNSで「#stayhome」「#家にいよう」といったハッシュタグが使われるようになってから、およそ2か月が過ぎました。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い生活様式が大きく変化する中で、皆さんそれぞれ、当たり前だった日常のありがたさを感じていることと思います。

家族や友人になかなか会えない。大切な仲間と時間と場所を共有できない。状況は依然として厳しく、楽観視できるものではありません。でもそのような状況だからこそ、教職課程で学ぶ皆さんに望むことがあります。それは、“テンプレ”ワードでお手軽に表現するばかりでなく、ときには自らの想いが乗った言葉を紡ぎだしてほしい、ということです。

想いが乗った言葉には、他者の心を動かす力があります。「キング・カズ」の愛称で親しまれるサッカーJ1・横浜FCの三浦知良選手は、「日本の力をみせるとき」と題する文章の中で、現況に対する自らの見解を以下のように語っています（三浦知良オフィシャルサイト<http://www.kazu-miura.com/column/detail/?article=301>、2020年4月16日閲覧）。

“すべての行動が制限されるわけでない緊急事態宣言は「緩い」という声がある。でもそれは、日本人の力を信じているからだ僕は信じたい。きつく強制しなくても、一人ひとりのモラルで動いてくれると信頼されたのだと受け止めたい。(略)

「都市封鎖をしなくたって、被害を小さく食い止められた。やはり日本人は素晴らしい」。そう記憶されるように。力を発揮するなら今、そうとらえて僕はできることをする。ロックダウンでなく「セルフ・ロックダウン」でいくよ。

自分たちを信じる。僕たちのモラル、秩序と連帯、日本のアイデンティティで乗り切ってみせる。そんな見本を示せたらいいね。”

三浦選手は、「一人ひとりのモラルで動いてくれると信頼された」者として、自らの行動を律する覚悟を示しています。そしてその覚悟を、個人のモラルに信を置いた「セルフ・ロックダウン」というイメージしやすい用語に置き換えた上で、読者に対し共闘を呼びかけています。「緊急事態宣言出てるし、コロナマジヤバイからおとなしく家にいよう」という言葉でも意図は伝わるでしょうが、三浦選手の言葉に力を得て、改めて、できることをやろうと感じた人も多いのではないでしょうか。

想いが乗った言葉を紡ぎだすためには、語彙力や表現力だけでなく、熱意や信念、人生哲学が必要です。当然のことながら、これらはすぐに身につくものではありません。ですが、これらが教師にとって必要不可欠な資質・能力であることもまた、確かです。教職課程で学ぶ皆さんが、この苦境を力に変えて、想いが乗った言葉を紡ぎだすための努力を始めてくれることを期待しています。

今だから伝えたいこと

教職支援センター非常勤の先生方から教員採用試験を目前にした皆さんへのメッセージです。

今、何をなすべきか。そうです。皆さんも分かっている通り、今やるべきことは、肅々と一次試験に向けての準備をすることです。そして、勉強の間に「教師になって、子どもたちとにぎやかに語り合っている姿」を想像してみましょう。

いよいよラストスパートですね。ゴールの向こうには皆さんとの出会いを心待ちにしている子どもたちの笑顔があります。「先生、頑張っ！」の聲が響いています。

今があって、教職の道が開けます。今こそ“破顔一笑、笑顔が一番”この状況を笑顔で乗り越えていきましょう。限界突破!!!

杉中 宏



皆さんのこれまでの20年余りの年月は、当たり前ではなく、途方もなく幸せの日々であったことを感じていますか？

多分、今、先行きに不安がいっぱいだと思います。でも、ふれないください。自分の未来は「子どもたちとともに」あることを選んだのですから。そのための勉強は何ら変わることはありません。

挑戦のための基礎は、3年生の後期にやったではありませんか。今、目の前に導く存在がなくなると、その基礎の上に積み上げていく力は、みんなが持っています。あとは、どれだけ「努力の足し算」をするかです。

宮川由美子



新任教員紹介

退職教員



柁淵 洋美
(健康スポーツ学科)

担当科目は教育課程論、教育方法・技術です。
先生になりたい！というあなたの夢を全力で応援します！一緒に夢を叶えましょう！
どうぞよろしくをお願いします。



小野まどか
(健康スポーツ学科)

この度新潟医療福祉大学を退職いたしました。新型コロナウイルスの影響で先行きが不透明な状況ではありますが、そのような中でもパソコンを駆使して子どもたちを励ましたり、考えを深め合ったりできるのが教師の仕事だと思います。新潟を離れてしまいましたが、教職志望の皆さんが良い成果を掴めるよう心から応援しています。ありがとうございました。

2020年3月付



教職課程担当教職員から学生のみなさんへメッセージ

~教職と受験する4年生へ~
その君の限界か...?
折り返すための
ラストスパイトを掴み取れ!!
ちりみつお

森 光雄
(健康スポーツ学科 教授)

夢を現実にするには
今できることを精一杯
やるだけ!! 教職課程

波多 幸江
(看護学科 教授)

主体的な学習のチャンス
「免疫力」を高める食事
について調べてみましょう
独学で構いません!
健康栄養学科 森泉哲也

森泉 哲也
(健康栄養学科 教授)

現状は皆さんと同じくらい
悪い。自分に言い訳をつくらず
現状に合わせて新たな発想
の一工夫で、追い風は必ず
来う!! 頑張れGO/GO!
脳野哲郎

脳野 哲郎
(健康スポーツ学科 教授)

毎日、熱いエールを
送っています。
ガンバ!

杉中 宏
(教職支援センター 非常勤講師)

自宅待機に負けず...
実習延期に負けず...
もしもコロナにも負けず...
最大の準備をして、
最高の実習にしよう!!
H.S. 吉田重和

吉田 重和
(健康スポーツ学科 准教授/
教職課程長/教職支援センター長)

今こそ、時間を
有意義に使って
頑張りましょう!

針谷美智子
(健康スポーツ学科 助教)

「努力は足し算」

宮川由美子
(教職支援センター 非常勤講師)

いつでも、どんなときでも
健康第一で、目標に
向かって頑張ってください。
健康スポーツ学科 杉崎弘周

杉崎 弘周
(健康スポーツ学科 准教授)

よ食ばよ寝てよ笑い
心と体に栄養を!
健康栄養学科 渡辺優奈

渡辺 優奈
(健康栄養学科 助教)

1年生のみはさん、
入学後すぐのことば不安だと
思いますが、一人じゃありません!
大丈夫。元気に会える日を楽しみに
しています。
杉淵 洋美

杉淵 洋美
(健康スポーツ学科 講師)

スタンダードプロコーションで
この困難を乗り越えましょう!
手洗い
大事
看護学科
坪川麻樹子

坪川麻樹子
(看護学科 講師)

「Keep stay home,
but you are not alone.」

上田 純平
(健康スポーツ学科 助教)

こんな時だからこそ
人にやさしくできる
人間力を磨こう!!
健康スポーツ学科 高田大輔

高田 大輔
(健康スポーツ学科 助教)

精一杯サボりたいします。
気軽に声をかけ下さい!
叶内

叶内 月菜
(学務部 教務課)

せっかくの機会なので、
子どもにとっての学校の意味や
アフターコロナについて考えて
みましょう。
健康スポーツ学科 佐藤裕紀

佐藤 裕紀
(健康スポーツ学科 講師)

事務局も頑張る皆さんを
見えない形で支援しています!
事務的サポートはお任せ下さい
今できることを、最善を尽くしましょう!
Be positive!! 野澤

野澤 紘子
(学務部教務課/教職支援センター)

あとがき

新型コロナウイルスにより今年度は例年とは全く異なる状況を迎えています。そのため、教職支援センターニュースレターも内容を変更し、今だから学生の皆さんに伝えたいこととして発刊することといたしました。不安な中と思いますが、学生の皆さんの支援を可能な限り継続したい——。そんな教職員からのメッセージを是非受け取っていただき、今できることを個々に取り組み、ニュースレター第5号の脳野先生の巻頭言のように「困難なことに挑戦することを楽しめる力」を養い、苦境を乗り越えていきましょう!
(健康スポーツ学科 高田・事務局 野澤)

新潟医療福祉大学 教職支援センター ニュースレター
2020年5月27日発行

発行 新潟医療福祉大学 教職支援センター運営委員会
〒950-3198 新潟県新潟市北区島見町1398番地
お問い合わせ
✉ E-mail : kyoshoku@nuhw.ac.jp
🌐 ブログ : http://nuhw.blog-niigata.net/kyoshoku/
🐦 Twitter : @NUHW_kyoshoku
📘 Facebook : 【卒業生向け】

新潟医療福祉大学 教職支援センター 検索

QRコード: ブログ, Twitter